

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 まほろば福祉会

令和 2 年度法人本部事業報告書

1 法人運営

(1) 登記

- ・ 資産変更登記 (令和 2 年 6 月 26 日)

(2) 永年勤続表彰

- ・ 正規職員 5 名、登録ヘルパー 3 名

(3) 監事監査

- ・ 令和 2 年 5 月 26 日実施

(4) 法人内研修

- ・ 相談支援、サービス管理責任者、サービス提供責任者合同研修

(5) 指導監査等

- ・ 宮崎市実地指導 (相談サポートまほろば、ワークステーションやじろべえ)
- ・ 宮崎県実地指導 (天領の杜)

(6) 寄附金

- ・ 福島 久美様 (金 100,000 円)
- ・ 株式会社 ユーワホームズ様 (金 200,000 円)
- ・ 東別府 成雄様 (金 360,000 円)

2 会議等

○理事会 (開催 1 回、書面審議 2 回)

①令和 2 年 6 月 16 日 (書面審議)

- ・ 令和元年度事業報告 (案) 並びに収支決算 (案) について
- ・ ほっとすてーしょん翼建替え工事の延期について
- ・ 社会福祉充実計画 (案) について
- ・ 諸規程の改訂について
- ・ 令和 2 年度第 1 回 (通算第 70 回) 評議員会の開催について

②令和 2 年 10 月 12 日 (出席者 理事 5 名、監事 2 名)

- ・ Yume ハウスやじろべえ 2 号館設置について
- ・ 第三者委員の選任について
- ・ 令和 2 年度第 2 回 (通算第 71 回) 評議員会の開催について

③令和 3 年 3 月 22 日 (書面審議)

- ・ 令和 2 年度補正予算 (案) について
- ・ 令和 3 年度事業計画 (案) 並びに収支予算 (案) について

- ・ 今後の運営方針～まほろばビジョン（案）について
- ・ 評議員選任、解任委員会委員の選任について
- ・ 第12期評議員候補者の選考について
- ・ 諸規程の変更について
- ・ 定款変更について
- ・ 人事異動（案）について
- ・ 令和2年度第3回（通算第72回）評議員会の開催について

○評議員会（開催2回、書面審議2回）

①令和2年6月26日（出席者 評議員6名、理事4名、監事1名）

- ・ 令和元年度事業報告（案）並びに収支決算（案）について
- ・ ほっとすてーしょん翼建替え工事の延期について
- ・ 社会福祉充実計画（案）について
- ・ 綾外科購入について

②令和2年10月27日（出席者 評議員6名、理事3名）

- ・ Yumeハウスやじろべえ2号館設置について

③令和3年3月25日（書面審議）

- ・ 令和2年度補正予算（案）について
- ・ 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- ・ 今後の運営方針～まほろばビジョン（案）について
- ・ 定款変更について

3 職員構成

①正規職員採用 5名（新規採用2名、契約・非常勤職員から登用3名）

②正規職員退職 4名（自己都合4名）

③職員構成（令和3年4月1日現在）

正規職員 75名、嘱託職員 5名、契約職員 18名、非常勤職員 35名、
登録ヘルパー47名 合計 180名

4 決算書（別添）

令和2年度 やじろべえ 事業報告書

1. 施設利用状況

(1) 就労移行支援事業（定員6名）

項目 \ 年度	H30年度	R元年度	※R2年度
一日平均利用者数	0人	1.3人	0人
利用率	0人	21.7%	0%
延べ利用者数	0人	343人	0人

※令和2年度から休止中。3年度中に廃止予定。

(2) 就労継続支援(B型)事業（定員34名） ● 目標 一日平均36.0人

項目 \ 年度	H30年度	R元年度	※R2年度
一日平均利用者数	36.3人	39.9人	39.9人
利用率	106.8%	117.4%	117.4%
延べ利用者数	9,514人	10,493人	10,401人

※新規利用者3人。退所者8人。令和3年3月31日末の登録者は47人。

(3) Yumeハウスやじろべえ1号館（定員5名）

項目 \ 年度	H30年度	※R元年度	R2年度
1日平均入居者数	4.1人	4.3人	4.98人
入居率	81.4%	86.2%	99.5%
外泊日数	3日	7日	2日
入院日数	180日	0日	0日
空床日数	155日	252日	2日

※令和元年10月までは共同生活援助事業として運営、11月からシェアハウスへ事業転換。

(4) Yumeハウスやじろべえ2号館（定員3名）

項目 \ 年度	—	—	※R2年度
1日平均入居者数			1.0人
入居率			33.3%
外泊日数			0日
入院日数			0日
空床日数			118日

※令和3年2月にオープン。現在の入居者1人。R3年9月までに満床の予定。

(5) 居宅介護事業等

項目 \ 年度	—	※R元年度	R2年度
居宅介護 延べ利用者数	—	719人	1,933人
重度訪問介護 延べ利用者数	—	0人	0人
外出介護 延べ利用者数	—	一人	一人

※令和元年8月1日に指定を受け、11月1日より運用を開始。

2. 給付費の状況

(1) ワークステーションやじろべえ

科目	事業名	H30年度	R元年度	R2年度	前年比
給付費収入	就労移行支援	0	1,968,790	0	0%
	就労継続支援(B型)	70,240,956	78,747,410	78,917,907	100.2%
利用者負担金収入	就労移行・継続B型	2,697,580	3,362,130	3,257,443	96.8%
合	計	72,938,536	84,078,330	82,175,350	97.7%

(2) Yumeハウスやじろべえ及びヘルパーステーションやじろべえ

科目	事業名	H30年度	R元年度	R2年度	前年比
	給付費収入	居宅介護	8,651,200	12,243,730	20,595,510
利用者負担金・賃借料収入	※R1.10月まで共同生活援助	2,133,179	1,839,228	1,832,134	99.6%
合	計	10,784,379	14,082,958	22,427,644	159.3%

- ◎増収要因 ① 障がい支援区分の高い方の入居
② 2号館のオープン
③ 福祉・介護職員等特定処遇改善加算増額

3. 事業体系の見直し

やじろべえは平成3年7月の開設以来、障害のある方の“就労支援”に特化したサービスを提供してきたが、令和に入りやじろべえの事業体系を再度見直し、新たなステージへと進化させるために「障がいのある方の『働く・くらす』をサポートする体制づくり（イメージ図 Ver.1～2）」を作成、改革を進めてきた。

令和2年度は、このイメージ図 Ver.2 の大きな事業の一つである2棟目のシェアハウス（女性専用）を立ち上げ、安心して「働く・くらす」ことができるサポート体制の強化を図ることができた。

4. 利用者には選ばれる施設づくりについて

工賃アップを最大の目標に事業内容や営業科目のパンフレットを特別支援学校や相談支援事業所、その他関係機関に配布するなどして新規利用者獲得及び授産科目の営業に努めた。また、コロナ禍で施設外の余暇活動等に大きな支障があったが、施設内での行事食の充実を図った。

5. 広報活動の強化

やじろべえ単独のホームページを作成し、利用者・家族等へ施設の状況（新型コロナウイルス感染症の情報提供及び注意喚起、台風接近時の施設の対応、月別献立内容等）の発信や、一般印刷、アパレルプリント、軽作業など受注促進の広報活動も行った。

6. 地域貢献活動

やじろべえ祭りの実施や地域諸行事（祭り大塚、大塚地区ふくし祭り）への参加、年2回の地域清掃活動等を計画していたが新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点からほとんどの行事が中止になった。唯一、11月に地域清掃活動が実施できた。

7. 健康管理

(1) 嘱託医による往診

毎月第1水曜日(13:00~15:00)に実施したが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため9月、2月の往診が中止となった。

(2) 定期健康診断

○ 利用者 宮崎県健康づくり協会にて、健康診断を1度行った。

○ 職員 宮崎県健康づくり協会にて夜勤者2度、その他職員は1度健康診断を行った。

(3) 給食サービス

年間を通して、栄養バランスと季節感を考慮したメニューを提供した。一部利用者の咀嚼、嚥下状況を考慮しての食事提供も行った。また、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から食堂の換気や対面での摂食を避けた配席、食事中的会話は控えるよう注意喚起するなど対応を行った。その他、施設外行事が制限されるなどしたため、代替えの行事食(7月1日焼肉会、2月19日芋煮会、3月31日花見会)には一層力を入れた。

(4) その他

感染症対策として、全利用者・職員の検温(毎朝)の実施、外来者入館時の検温と記録の実施、県外への往来自粛(特に感染拡大地域及び感染流行地域)、感染拡大地域及び感染流行地域へ往来やその地域からの来訪者と接触した場合2週間の施設利用や出勤の停止、施設内の加湿器及び空間除菌装置(次亜塩素酸水)の設置、定期的にトイレやドアノブ等の消毒、注意喚起を行うためのポスター掲示や文書の配付、昼食時や休憩時(水分補給等)は対面では行わないように配席するなど、あらゆる対策を講じた。

8. 研修等による資質向上

職員の資質向上、自己研鑽のための資格取得に向けての介護福祉士実務者研修の参加については勤務調整などに配慮した。

施設外研修は新型コロナウイルス感染症の影響により延期や中止、またはWeb(オンライン、オンデマンド)研修となることがほとんどであった(従来型の集団での研修会には欠席)が、各職員の経験年数や職種に応じた研修会に参加することができた。

9. 各事業の具体的取組み

(1) ワークステーションやじろべえ

年間を通し就労継続支援B型(定員34名)の一事業で運営し、利用者数は39.9人と昨年度と同じであった。しかし、障害の重度化に伴う作業力の低下などにより、平均工賃は平成29年度を境に減少し、令和元年度に微増はしたが、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、各種イベントや会議などの自粛により、一般印刷・アパレルプリントの受注が大きく低下した。

しばらくこのような状況が継続すると予想されるが、平均工賃目標額の達成に向けて利用者・職員が一丸となり、全力で営業活動に取り組むたい。

項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	前年対比
印刷収入	18,793,627円	20,276,973	16,199,336	16,942,641	104.6%
特殊印刷収入	12,336,026円	9,266,435	7,830,836	5,873,168	75.0%
受託収入	1,544,435円	1,081,807	552,953	1,458,946	263.8%
合計	32,674,088円	30,625,215	24,583,125	24,274,755	98.7%

■ 工賃支給状況

項目	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	※R2年度
平均月額	21,069円	22,016円	23,543円	20,788円	21,791円	20,528円
時給換算	273円	276円	300円	298円	308円	292.5円
総支給額	10,850,545円	12,196,767円	13,207,830円	11,454,070円	12,769,545円	12,234,920円
総就労時間数	39,790h	44,047h	43,972h	38,402h	41,519h	41,827h
延べ支給人数	515人	554人	561人	551人	586人	596人

※対前年比で総支給額が-534,625円、総就労時間数は+308時間、延べ人数は+10人であった。

○ 印刷事業(一般印刷、アパレルプリント)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売り上げ目標3,250万円だったのに対し、2,280万円と大きく目標を達成することができなかった。
- ・ 「優先調達推進法」や「障害者の『働く場』に対する発注促進税制」を活用した営業を展開した。
- ・ 人材育成のため、制作・編集担当者(利用者)の勉強会を随時行った。
- ・ 官公庁及び各種団体にチラシなどを配布するなどの営業活動を行った。
- ・ 発信力のある企業の下請けにて商品提供等を試みた。

○ 請負事業(軽作業)

- ・ 売り上げ目標150万円に対し146万円の実績だった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、以前より増して作業室への入室時の消毒や空間除菌等、衛生管理には万全を期することができた。
- ・ 利用者の障害を考慮した自助具を活用しながら効率よく作業に取り組むことができた。
- ・ 資材や商品を整理する棚を整備し、安全と有効作業スペース確保ができた。

○ 新たな事業への取り組み

- ・ 新たに自動車部品であるハーネスの組み立て作業に取り組んだが、作業単価の折り合いや利用者間のトラブル等により作業が順調に進まず、作業開始から半年ほどで断念した。

○ 一般就労への支援

- ・ ハローワークが実施する求職活動支援セミナーは新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。
- ・ 一般就労者への定着支援は、当該利用者へのフォローアップを行った。

(2) ヘルパーステーションやじろべえ(居宅介護、重度訪問介護、外出介護)

○ 重点的取組

- ・ 居宅介護計画を基に共通認識を持ち、きめ細やかなサービス提供を行うため、支援時に訪問し利用者やヘルパーの困りごとなどに対応した。
- ・ 2棟目のシェアハウスを立ち上げや外出介護の指定に伴い、新規ヘルパーを採用し、円滑

なスケジュールが組めるよう調整した。

○ 具体的な展開

- ・ 年4回の研修及びミーティングを計画していたが新型コロナウイルス感染症の状況により年2回の実施にとどまった。
- ・ 毎月のヘルパーミーティングを実施し、またサービスの標準化を図るうえで伝達事項の書面配付も適宜行った。
- ・ 福祉有償運送サービスネットワーク運転者の確保のための講習を受けることができなかった。
- ・ 円滑な居宅介護サービス提供のため、希望者に早めの申請バックアップを行っている。
- ・ 外出介護については新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点より、不要不急の外出自粛によりほとんど対応できなかった。

(4) Yumeハウスやじろべえ1号館、2号館

- ・ 2棟目のシェアハウスを立ち上げることができ、安心して働くうえで、安定したサポート体制を整えることができた。
- ・ 夜間や緊急時の対応については、(株)九州ガードシステムやバックアップ施設であるワークステーションやじろべえで対応を行った。
- ・ 共同生活をするうえで利用者・職員の絆を深め、より充実した生活を目的として宿泊旅行を含めた各種行事を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため計画を断念した。新型コロナウイルス感染症が収束したのち改めて計画する。

令和2年度 ほっとすてーしょん翼 事業報告

1. 概要

(1) 新型コロナウイルス感染防止の取り組み

新型コロナウイルス感染防止の取り組みとして、新型コロナウイルス対応マニュアルを作成し、職員への周知を図った。5月に動画視聴、8月に外部講師を招いて感染症の基礎知識と予防対策（手指衛生とガウンテクニック）についての研修を実施した。環境整備については、職員の消毒作業の負担軽減及び利用者・職員が安心して生活できるよう、感染症対策事業費補助金を活用して、オゾン機器を施設内へ設置した。家族からの面会についても市障がい福祉分野ICT導入モデル事業補助金を活用してのタブレット導入を行い、オンライン面会が出来るよう環境を整えた。

新型コロナウイルスが収束せず、余暇活動についても行事・外出の制限や禁止、アニマルセラピーやサークルの中止をせざるを得ない状況が続いている。外出等が出来ないため、スクリーンでの動画視聴やプチ納涼祭、餃子会や焼肉会など食のイベントの実施を行った。リフレッシュ外出、BD外出等についてはテイクアウトやデリバリーでの食事を楽しんでもらうなどの工夫を行ってきた。今後も、楽しみながら利用者に関わる時間を持つように感染防止に努めながら、利用者の皆様に楽しんで頂けるような企画、立案をし、活動を通して利用者の思いを聞き知ることによって利用者に寄り添った支援へと繋げていきたい。

(2) 災害時の危機管理の取り組み

7月の豪雨災害の教訓を受けて、これまで策定していた洪水時の避難確保計画の見直しを行い、いざという時に職員がすぐに行動に移すことができるように改訂・周知を図った。また、同時に非常用備品や保管場所の見直し検討を行った。その結果、9月の台風10号の際には、避難計画に沿った対応をすることが出来た。3月には、大淀川洪水時を想定した避難訓練を実施した。

(3) 権利擁護の取り組み

事業拠点としての連携を図るため、入所、地域支援局合同での委員会活動に取り組んできた。ヒューマンライツ委員会を中心としたインシデント検討会議では、第3者の視点を踏まえた検証や統一した支援を行うことがより可能となった。また、業務管理委員会にて介護マニュアルの改訂を行った。今後は、職員へ周知、活用することでケアの標準化及び質の担保を図ってきたい。

2. 事業の状況

(1) 入所

① 入退所状況

- ・ 退所者はいなかった。

② 利用実績

- ・ 1日平均利用者数 31.4名。
- ・ 入院者は減少したが長期入院された方がいたこともあり、入院日数が増加した。

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大予防のため外泊自粛をお願いしたことに伴い外泊者がいない状況が続いている。

③ 医療的ケアを必要とする利用者の増加

- ・ 高齢化・重度化により、医療的ケアが必要な利用者（留置カテーテル 2 名）が増加した。また、医療的ケア（経管栄養、カテーテル等）に関する受診及び処置が必要な利用者が増えている。
- ・ 入院された方の多くが「尿路感染」であった。排泄状況の把握はもちろんのこと、支援方法や水分摂取量の見直しを行い、予防に努めたい。

○施設の利用状況（定員 32 名）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
1 日平均利用者数	31.5 名	31.5 名	31.4 名	-0.1 名
利 用 率	98.4%	98.4%	98.1%	-0.3%
延べ入院日数	96 日	195 日	226 日	+31 日
延べ外泊日数	42 日	23 日	0 日	-23 日

○介護給付費の状況（単位：円）

科 目	30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
介護給付費収入	184,386,761	187,252,445	186,696,132	99.7%
利用者負担金収入	15,505,664	16,170,623	16,568,707	102%
合 計	199,892,425	203,423,068	203,264,839	99.9%

- ◎ 減収要因 ①入院日数の増加
 ②栄養士未配置による減算（令和 3 年 1 月～3 月）

（2）通所生活介護・通所介護

①利用実績

- ・ 生活介護では、4 名の新規利用者を受け入れたこともあり、延べ利用者数、1 日平均利用者数を伸ばすことができた。今後は利用を継続して頂くために活動内容の充実や個別ニーズへの対応等、利用者の満足度を高めていきたい。
- ・ 通所介護は Be Fine に入居されている方 1 名が利用を控えていることや入院により、延べ利用者数が 76 名の減少となった。障害福祉からの新規移行者はいなかった。

○生活介護

【利用実績】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
開所日数	266 日	265 日	270 日	+5 日
延べ利用人数	4,668 名	4,733 名	5,273 名	+540 名
1 日平均利用者数	17.5 名	17.8 名	19.5 名	+1.7 名
登録利用者数	28 名	30 名	33 名	+3 名

【介護給付費】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
介護給付費	68,744,540	74,365,784	82,666,670	111%
利用者負担金	888,280	973,566	1,172,390	120%
合 計	69,632,820	75,339,350	83,839,060	111%

○通所介護

【利用実績】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
開所日数	251 日	251 日	260 日	+9 日
延べ利用人数	1,662 名	1,583 名	1,507 名	-76 名
1 日平均利用者数	6.6 名	6.3 名	5.8 名	-0.5 名
登録利用者数	11 名	9 名	8 名	-1 名

【介護給付費】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	対前年比
介護給付費	7,559,658	7,357,755	6,845,211	93%
利用者負担金	1,070,354	1,168,099	1,093,065	93%
合 計	8,630,012	8,525,854	7,938,276	93%

(3) 居宅介護

①利用実績

- ・ 居宅介護は増収となったが、9月に1名の利用者が亡くなり契約解除となった。
- ・ 重度訪問介護は利用者の入院もあり、減収となった。
- ・ 同行援護は登録利用者に変更はなく、収入は微増であった。
- ・ 外出介護については、コロナウイルス感染防止のため、県内の感染状況に応じて外出を控えて頂いたことで減収となった。
- ・ 訪問介護は1名の方が障害福祉から介護保険へ移行され、増収となった。

【介護給付費】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比
居宅介護	81,182,690	91,869,959	102,495,336	111%
重度訪問介護	25,685,200	25,670,110	22,430,150	87%
同行援護	974,570	1,057,770	1,222,310	115%
外出介護	3,121,310	2,598,480	1,633,160	62%
訪問介護	15,231,395	19,086,455	21,525,800	112%
合計	126,195,165	140,282,774	149,306,756	106%

(4) BE・FREE、Be Fine

- ・ BE・FREE、Be Fine ともに感染防止対策に取り組み、新型コロナウイルスへの感染を防ぐことができた。BE・FREE では、外部サービスを利用されている方が PCR 検査の対象となったが、検査結果陰性であった。その際、防護服の着用など実際に職員が経験したことで感染防止対策への意識をより高める機会となった。

新型コロナウイルス感染症に伴う行動自粛等により、利用者の方もストレスを抱える中、少しでも楽しんでいただけるように、法人秋の花火ショーにあわせて地域支援局祭りを開催した。

(5) 相談サポートまほろば

①利用実績

昨年度、新規利用者23名と契約し、登録利用者総数は232名となった。

一昨年度の新規利用者は33名であったが、うち20名は基幹センターから異動してきた支援員の担当している利用者であったので、実質的には昨年より10名多くの利用者増となっている。

新たな利用者は、ほとんどが基幹センターからの依頼であり、児の相談も基幹センターである「おおぞら」からの5名の依頼を受けている。

基幹センターとの連携もできており、機能強化型事業所としての役割も果たしている。

昨年に引き続き、計画の更新時期の管理等を徹底し、請求漏れのないようにし、無駄を省いての業務を遂行に努め、平成30年から給付開始されたサービス提供時モニタリングも実施するように努めた。その結果、計画作成、モニタリング、サービス提供時モニタリング件数も増え、収入も380万円の増収、昨年度同じく前年度比150%となった。

【計画作成・モニタリング件数】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比
計画作成	151件	142件	161件	222件	137%
モニタリング	177件	210件	352件	438件	124%
計	328件	352件	513件	660件	128%

【サービス提供時モニタリング・モニタリング時担当者会議件数】

	令和元年度	令和2年度	対前年比
サービス提供時モニタリング	85件	209件	245%

【計画相談支援給付費】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比
給付費	4,817,220	5,040,550	7,595,000	11,440,040	150%

(6) 自立生活援助事業

①利用実績

- ・ 令和元年8月に事業所指定を受け、現在2名の方が利用されている。
主に、買い物同行や入浴同行、各種手続き代行、日常生活相談等の支援を行っている。
令和3年4月報酬改定で支給期間が1年間で終了ではなくなった為、必要であれば適切に延長して支援を継続できることになった。今後も、利用者が地域で安心して自立した生活ができるように支援していきたい。

令和2年度 さくら館 事業報告書

1. 概要

生活介護、居宅介護とも前年を上回り、給付費収入合計が令和元年度比で13%の増となる見込みである。処遇改善加算、特定処遇改善加算を除いても、過去最高値となった。

【報酬等総額】

科 目	事 業 名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
介護給付費	生活介護事業	97,652,003	98,604,980	106,156,545	107%
	居宅介護事業	109,288,360	113,100,870	133,933,557	118%
利用者負担金収入	生活介護事業	1,728,581	1,612,940	1,691,550	104%
	居宅介護事業	4,027,735	3,868,620	4,002,161	103%
合 計		212,696,679	217,187,410	245,783,813	113%

【諸経費支出実績】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比
コピー使用料	225,274	325,209	272,412	83%
電気料金	1,872,848	1,850,241	1,985,530	107%
ガス料金	1,182,460	1,092,660	1,082,470	99%
水道料金	1,060,392	1,037,882	1,113,948	107%
食材料費	2,839,507	2,572,864	2,771,360	107%
ガソリン	2,185,481	2,127,769	1,931,846	90%
合 計	9,365,962	9,006,625	9,157,566	101%

2. 生活介護事業

- ・ 長期入院から施設入所された方が1名(末吉様)。亡くなられた方が2名(丸田様、柳本様)の3名が退所し、新規契約利用者が3名(柳本様、猪野様、鈴木様)であった。新型コロナによる長期欠席者が2名いた。年間の利用者受け入数は、317名増の6,196人であった。前年度比6日増の営業日数だったが、更に、営業日数7日分に相当する数が上積みされたこととなる。積極的な新規受け入れが、コロナの影響で落ち込むはずの定員を押し上げる結果となった。
- ・ 年間13日の祝日営業を行い、延べ273名の受け入れが出来た。
- ・ コロナの影響で、ほとんどの園外活動が中止となり、代替での園内活動となった。そのような中、4月にはさくら咲く文化祭、5月にはこいのぼり運動会、5月25日の緊急事態宣言解除後には初めての外出企画として、7月にテイクアウトしよう会などを行った。8月に入ると、コロナの第2波の影響で再び外出自粛となり、園内で、ミニ納涼祭・ファッションショー&エアー花火・残暑を楽しもう会など行った。落ち着きを取り戻した11月には、レストランレミューズを貸し切り、ランチビュッフェを企画することが出来た。12月以降は、スローテイクアウト・仕出し弁当会、芋煮会、餅つき大会、ドライブスルー初詣、園内ソ

ロキャンプ、ピザ会、鍋会などたくさんの園内企画を催し、楽しんでもらう事が出来た。

- ・ 事故防止の観点から、月毎の日中活動予定表及び園内活動実施計画書をマニュアル化した。担当者が実施計画書の作成を入念に行い、新しい企画を次々と計画出来た。そして、職員の反省会や利用者ミーティングを徹底し、実施報告書から改善点などを抽出した。
- ・ 生活介護支援員を居宅介護従業者として、常勤兼務とした。生活介護の勤務表と居宅介護のスケジュールで、兼務派遣を管理・調整することが出来た。

【利用実績】生活介護事業

項目	年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1日平均利用者数	23.1名	23.2名	23.9
定員20名に対する利用率	115.7%	116.1%	119%
延べ利用者数	5,878名	5,879名	6,196名

3. 居宅介護事業

- ・ 4年目のシェアハウスくろーばーと2年目を迎えたシェアハウスあさがおが、年間を通して入居率100%であった。シェアハウスひまわりは、6月に新しく入居者があり、3つのシェアハウスが初めて、入居率100%となった。
- ・ シェアハウスひまわりは、平成25年11月オープンから7年を経過した。6月に新しく入居された方が、1月に体調が急変し救急搬送された。病院で療養をしていたがその後亡くなられた。
- ・ シェアハウスくろーばーは、大塚台から跡江に拠点を移し、令和2年6月で、4年を迎えた。大塚台からは、通算10年目。利用者の欠員もなく、運営できている。利用者間の対人関係も良好である。
- ・ 令和2年度は、くろーばーとひまわり、あさがおの利用者ミーティングが定期的に行えなかった。ニーズ調査や支援のモニタリングにも必要不可欠であるので、連絡ノートやご意見箱など検討していきたい。
- ・ ヘルパーミーティングやシェアハウス支援者会議を定期的に行い、積極的にSNS等も取り入れ、タイムリーな情報の発信、受信、情報の共有に努めた。
- ・ ヘルパーミーティングの時間を3パターンで行い、参加率の向上を図る事が出来た。(10時・13時・17時)
- ・ あさがおが跡江地区にオープンしたことで、人手が跡江を拠点に集中し、夕方の派遣から別なシェアハウスへの夜勤に入るシフトが定着した。ヘルパーの労働時間の確保や派遣の偏りの改善も図れた。
- ・ ヘルパーが喀痰吸引や経管栄養を行うことで、医療的ケアの支援の拡充が図れた。
- ・ 新規利用者2名、解約者4名あった。

4. 訪問介護事業

- ・ 障害福祉サービスからの移行があり、1名増の3名になった。
- ・ 医療的ケアの範囲が広がりつつある。かかりつけ医や訪問看護との連携を密に行えた。

5. 年間報告一覧表(次ページへ)

- ・ 行事関係
- ・ 防災訓練関係
- ・ 職員研修関係

令和2年度 さくら館行事関係

イベント関係

4月24日	文化祭 彩り弁当	10月22日	西都原古墳
5月28日	こいのぼり運動会	11月12日 11月17日	レストランレミューズ 芋煮会
6月4日 6月23日	菖蒲車窓ドライブ サンビーチーツ葉BBQ	12月18日 12月25日	利用者忘年会 鍋パーティー クリスマスピザ 餅つき
7月7日 7月15日	そうめん流し テイクアウトしよう会	令和3年 1月5日	ドライブスルー初詣(跡江神社)
8月14日 8月23日	ファッションショー&エア-花火大会 納涼祭	2月17日 2月22日	ソロキャンプ 寿司会
9月14日	残暑を楽しもう会	3月30日	さくらさくら花見会

令和2年度 防災訓練関係

4月12日	消火・避難訓練(飛鳥防災)	10月18日	インフルエンザ講話(看護師)
5月13日	防災講話(防火管理者:横山所長)	11月7日 11月19日	消防機器操訓練(飛鳥防災) 避難訓練(生目の杜)
6月4日	地震講話(消防署指導)	12月17日	防災訓練振り返り
7月11日	AED操作訓練(ALSOK)	2月14日	災害用伝言ダイヤルの活用 について
8月20日	台風対策講習会	3月9日	新型コロナウイルス対策
9月9日	地震対策DVD講習会		

令和2年度 研修受講状況

5月16日	交通安全マナー講座		
5月17日	同行援護研修		
5月22日	福祉の基礎知識習得	11月1/2日	相談支援
5月23日	新任職員研修	11月5日	労働災害防止
5月24日	同行援護研修	11月13日	ターミナルケア
6月1日	認知ケア	11月20/21日	福祉職員キャリアパス対応
6月6日	問題解決能力スキルアップ	11月26日	虐待防止
6月21日	発達障がい者	11月29日	苦情解決セミナー
7月3/4日	記録技術基礎研修		
		12月3日	サービス管理責任者講習
		12月4日	ホームヘルパー
		12月6日	虐待防止
8月8日	防災士育成		
8月21日	コーチング		
9月5/6日	防災管理者	1月10/11日	サービス管理責任者講習
9月11日	福祉職員の医学知識	1月30/31日	BCP事業継続計画
9月19日	集団指導	2月1日	高次機能障害
9月20日	虐待防止	2月14日	ミーティングのすすめ方
9月27日	防災士育成	2月19日	障がい者理解とコミュニケーション研修
		2月21/22日	消防士育成
10月2/3日	相談支援		
10月4/5日	有償運送		
10月16日	安全運転管理講習・法人職員	3月22日	虐待防止委員会
10月17日	全体研修		
10月22日	身体拘束や高齢者虐待・介護保険		
10月23日	集団指導 管理者虐待防止・虐待防止		

令和 2 年度 天領の杜 事業報告書

1. 概 要

- ・ 天領の杜も 10 周年を迎えることが出来、これまで、関わって頂いた利用者の皆様、ご家族の方々に支えられ、たくさんのお出逢いと別れもあった。どの利用者の方にも、悔いのない支援が出来るよう、今後とも、利用者へ寄り添い、共に悩み、助け合いを大事にしていきたい。
- ・ 給付費については、外出介護は、前年度を大きく下回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出の制限によるものである。
- ・ 訪問介護については、ともしびの利用者がお亡くなりになり、空き部屋がまだ、埋まっていない状況であり、減収となっている。

給付費収入一覧

単位：円

サービス種類	給 付 費				前年比 (%)
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
生活介護	給付費	57,951,327	57,079,396	62,416,249	109
	利用者負担金	1,241,523	992,344	1,230,441	123
居宅介護	給付費	110,142,240 (5,022,700)	111,532,250 (7,766,630)	112,415,050 (7,815,600)	100
	利用者負担金	414,950	355,700	177,650	49
外出介護	給付費	5,034,120	4,646,870	3,256,890	70
	利用者負担金	414,950	355,700	177,650	49
訪問介護	給付費	16,719,102 (13,886,639)	19,181,725 (15,353,809)	18,574,084 (13,574,314)	96
	利用者負担金	1,815,638	2,093,885	1,861,426	88
合 計		193,318,900	195,882,170	199,931,790	102

* () はともしび入居者分の給付費

2. 生活介護事業

- ・ 生活介護利用実績は下表のとおりである。
- ・ 延人数が 358 人増であった。
- ・ 新規利用者は 5 名増えたが、毎日利用では無い方がほとんどだった為、延べ人数も伸びなかった。
- ・ 生産活動については、販売できるほどの収穫が出来なかったが、昼食での提供やホーム入居者の方へ調理して食べていただいた。
- ・ 各月、園外行事や、充実した食事の提供が出来たが、新型コロナウイルス感染症対策にて行事等の自粛により、身近なことでの楽しみ方の工夫をし、食を中心としたイベントを考え焼肉や握り寿司等の提供を行った。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1 日の平均利用者数	15.1 人	14.6 人	16.0 人
開所日数	265 日	263 日	263 日
延べ利用人数	3,999 人	3,838 人	4196 人

園外活動・イベント

4 月	(2 日)お好み焼きの日 (17 日)お花見～馬事公苑 (車窓)	10 月	(1 日) 酒泉の杜でランチ (20 日) 運動会 (29 日) 西都原コスモス
5 月		11 月	(12 日) 夾竹園
6 月		12 月	(24 日) クリスマス会
7 月	(18 日)西都パオ	1 月	(5 日) 綾神社初詣 (12 日) 天領の杜 10 周年祭
8 月		2 月	(23 日) ラナンキュラス見本市
9 月	(12 日)夕涼み会	3 月	(11 日) 酒泉の杜 (30 日) お花見 (車窓)、焼肉会

3. 居宅介護・重度訪問介護・訪問介護事業

- ・ 血糖コントロールや人工呼吸器導入のための長期入院。また、利用者の退所に伴う計画の変更があったものの、職員やヘルパー間で情報を共有しながら利用者支援に取り組むことが出来た。
- ・ 障がい福祉サービスと介護保険サービスとで、支給量や要介護度の変更に伴うサービス内容の見直しなど、相談支援員やケアマネージャー、その他の職種や事業所と協働しながら、個後のニーズに合わせた支援内容を検討、実施することが出来た。
- ・ 昨年度は、新型コロナウイルス感染に伴い、外部研修は中止となったが、毎月のヘルパー会議の中で利用者に対する移乗方法や感染対策、感染予防の手技など内部研修として実施した。

4. 福祉ホーム事業

- ・ 9 月には生活介護と合同で夕涼み会を実施。食事やゲーム、花火など、普段、福祉ホームでは、出来ないイベントの参加に利用者も楽しめていた。
- ・ コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染対策を徹底した。宮崎県の緊急事態宣言を受けて面会禁止や外出の自粛を行った。昨年、喜楽家では、1 名の利用者が発熱により、PCR 検査を実施し、陰性であった。引き続き感染対策の徹底と利用者の体調管理に留意していく必要がある。
- ・ 天領の杜では昨年、1 名退所された。→井上真理氏。夢ハウス 2 号館へ入居。

5. 研修関係

5月	・介護技術～移乗
6月	・接遇マナー ・タイムマネジメント研修 ・チーム力を高めるコミュニケーション研修～中堅職員編
7月	・福祉施設における食の安全・安心研修 ・問題解決能力スキルアップ研修 ・チーム力を高めるコミュニケーション研修～チームリーダー編 ・安全運転管理者講習 ・AED研修
8月	・職務を通じて部下を育てるOJT研修
9月	・コミュニケーション研修
10月	・障がい者虐待防止・権利擁護研修
11月	・苦情解決セミナー
12月	・チームビルディングのためのリーダーシップ研修
1月	・チームをまとめる中堅職員メンバーシップ研修
2月	・介護技術～移動・移乗～

6. 決算状況

別添決算資料参照

令和2年度 住宅型有料老人ホーム みんなの家ともしび事業報告

1. 概要

新型コロナウイルス感染拡大の事態を受け、改めてコロナウイルスの脅威を感じた一年だった。日々感染防止対策に追われながら、入居者やご家族にも面会及び外出等の制限を実施した。

入退去については、5月に90代女性が入居し、8月は開設当初からの入居者60代男性が亡くなった。また、1月に50代男性が入居したが、2月に退居したため、3月末で2部屋の空室となっている。

2. 事業の状況

●入居者状況（定員10名）

項目	年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1日平均入所者数	7.88人	8.77人	8.29人
入居率	78.8%	87.7%	83.9%
延べ人数	2,878人	3,211人	3,063人

3. 事業収入の状況

●居宅介護給付費・介護報酬

科目	事業所名	年度			前年比
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
居宅介護給付費	天領の杜	5,022,700	7,766,630	8,068,480	103.8%
介護報酬	天領の杜訪問介護	13,820,418	17,022,370	14,880,210	87.4%
合計		18,843,118	24,789,000	22,948,690	92.5%

4. 研修の受講状況

R2.10.15 高齢者施設合同研修会

5. 避難訓練・点検

開催月	実施内容	実施業者
5月	総合防災訓練、定期点検	飛鳥防災
6月	AED講習会	サニクリーン九州
8月	消防設備点検	飛鳥防災
10月	職員緊急連絡網実施訓練	天領の杜

11月	総合防災訓練、定期点検	飛鳥防災
2月	消防設備点検	飛鳥防災

天領の杜と合同で実施

6. 綾外科への避難

9月の台風接近にともない、6名の入居者が綾外科へ避難した。

避難計画に基づき、入居者が不安にならないよう声掛けをしながら避難誘導を行った。食料品や飲料水については十分な備蓄はあったが、カップ麺やパンを苦手とする入居者もいたことから、アルファ米やおかゆ・缶詰などの品数も増やしておきたい。

7. 消火活動

2月8日の16時頃、天領の杜敷地近くの堤防沿いから出火。喜楽家の庭からともしびの庭へと延焼し空き地がほぼ全焼した。消防署へ通報し、地元の消防団も駆けつけ消火活動が行われるなか、団員から消火栓の場所を尋ねられたが職員の誰一人答えることができなかった。